

近世後期上越地域における真宗僧侶の 学問的ネットワークについて

松 田 慎 也*

(平成16年10月29日受付；平成16年12月7日受理)

要 旨

近世後期における僧侶の学問研究は盛んであり、殊に真宗においては学僧を目指す者が輩出した。しかし、従来、地方における彼らの学問の実態についてはほとんど知られることがなかった。本稿では、史料に基づきその一端を紹介することを通じて、今後の研究の基礎づくりを試みた。

KEY WORDS

learned monks	学僧	buddhist college for monks	学寮	ryousu	寮司
Shin-shu	浄土真宗	Hongakubo	本覚坊		

1 はじめに

一般に近世仏教というと檀家制度の上に胡座をかいていただけに思われがちであるが、一方では幕府の奨励もあって学問研究が盛んに行われ、それにつれ学問を志す僧侶の数が飛躍的に増大した時代でもあった。そして、このような中で培われた好学の気風の高まりは、民間におけるそれとともに、近代日本を準備する上で大きな役割を果たしたと考えられる。しかし、近世僧侶の学問に関する研究は少なく、特に地方における僧侶の学問の実態についてはこれまでほとんど紹介がなかったように思われる。

本稿は、上越市下野田にある真宗大谷派（本山東本願寺）寺院本覚坊所蔵史料「会読日記」^①に拠りつつ、近世後期（文化年間末～天保期）における上越地域、特に頸城平野部の真宗僧侶の学問と、そのネットワークの一端を紹介することを目的とする。しかし、その前にまず、次項では近世東本願寺における学問制度の概略を述べ、以下の理解の手がかりとしたい。

2 近世東本願寺の学問制度

東本願寺における学問研究機関（学寮）設置の動きは近世前期寛文年間に始まるという。その後、整備が次第に進められたが、画期となったのは宝暦四年（1754）の高倉魚棚への移転に伴う規模拡大である（地名に因んで高倉学寮の名がある。今日の大谷大学の前身にあたる）。

高倉学寮の職制は、本山側の監督機関である学寮奉行・監寮奉行・寮支配の下に、学寮関係者として講師・嗣講・擬講（以上を三講者という）という教授陣と寮司・擬寮司・大衆（所化）という学生身分からなっていた。

* 社会系教育講座

寮司とは、元来、寮内の大衆の取りまとめを行う役職である。上首^{じょうしゅ}は、寮司中から一人が選任され、三講者の指示を受けて寮内の事務を統括する責任者であり、常勤の役職であった。本来的な講義期間である夏講の期間（4月15日～6月26日）は学生が大勢集まるので、上首の補佐役として寮司の中から七人が知事に指名されることになっていた。近世後期、越後国は毎年一人の知事を出す権利を有していた。

一方、寮司には学問的階位の意味もあり、昇任は擬寮司中から選任された。また、擬講に欠員が出た場合には寮司の中から後任が推挙される決まりがあった。さらに寮司には副講の名で講義を行うことが認められていた（ただし、記録から見る限り、高倉学寮で副講を行った者の数は、寮司全体のごく一部であったようである）。

擬寮司は寛政三年（1791）に新設された階位で、夏講に九回出席（当初十六回という）した者が推挙された。擬寮司以下でも講義を行うことが認められない訳ではなかったが、その場合には会読と称された^②。

では、寮司・擬寮司は何人位いたのであろうか。上首の詰める事務所の日誌である「上首寮日記」^③によれば、毎年、夏講終了後に寮司・擬寮司の名前を書き上げた帳面（隸名帳）が講者に差し出される習わしがあった。人数の記録があるのは文政八年（1825）のみであるが、この時の寮司人数は346名、擬寮司人数は615名、総計961名である。この年の夏講出席者は1502人で「古今未曾有也」と書かれている。その後も出席者の多い年が続き、記録のあるところでは、文政十一年1714人、同十二年1434人、天保七年（1836）1251人、天保九年1847人、天保十一年810人のように推移している。これに連れて寮司・擬寮司の人数もさらに増加したものと思われる。

夏講に九回出席するというのは地方寺院の子弟にとってはかなりの財政的負担ではなかったかと思われるし、また寮司・擬寮司に昇任する際にはそれなりの費用が必要であった^④。しかも高倉学寮で学ぶには、それ以前に相当の学識を身に付けておく必要があったから^⑤、入寮以前の国元での勉強が欠かせないが、そのために金がかかった。しかし、そこまでの経済的負担をしてまでも高倉学寮に学ぼうとする者が大勢いたのである。

向学心旺盛な地方寺院子弟の教育も、その国在住の寮司・擬寮司に期待された役目であったようである。「学寮定」によると、大衆は三夏続けて欠席すると在籍者名簿から名前が削られる（復籍は可能）のに対し、寮司の場合は十夏となっているのは^⑥、年齢とともに自坊の寺役が忙しくなるということもあろうが、上記のような事情もあるものと考えられる。中には自坊に学寮を設けて（一般にこれを地方学寮と呼ぶ）、後進の指導を行う者もあった。

3 本覚坊靈秀の学問的履歴

さて本稿で扱う「会読日記」の著者本覚坊靈秀（嶺照とも称した）は安永七年（1778）生まれである。本覚坊では先代住職祐正靈空（1811没）も学問を志した人であったらしく、同寺の蔵書目録の中には彼が筆録した講義録等の記載が見られる^⑦。ここからすると、靈秀は学問的環境のなかで成長したものと思われるが、少年時代の勉強に関する記録は残念ながら残されていない。

靈秀は自筆の年譜を残している^⑧が、高倉学寮に入寮以前の学問に関する記録は以下の通りである。

寛政六年(1794)「天野原神天於自坊講愚禿鈔及三十論述記 閏十一月於戸野目蓮休寺会読御本書」

寛政七年(1795)「青田法慧於土橋本覚寺講略文類并一帖目御文 神天於中屋敷安養寺続講御本書」

寛政八年(1796)「神天講御文并大乘義章 同十一月於自坊神天大乘義章続講及正信偈会読即十一月十五日死去」

「会読」とあることからすると、神天^⑧はおそらく擬寮司であったのだろう。

翌寛政九年、靈秀は初めて高倉学寮の夏講に出席した。しかし、続く二年間は京都へ赴いたのかどうか定かでない。講者たちの講義名を記す一方で「吾不聴之」としているからである。一方、国元での勉学には励んだ。

寛政十年(1798)「行飛田村浄善寺亮天所聴二玄義分高僧贊一」

寛政十一年(1799)「行下越后廣野村正覚寺寂味寮司所聴_一愚禿鈔三経□文類_一 秋至飛田亮天寮司所聴_一探玄記会読_一」

亮天には寛政三年夏講において『華嚴旨帰』の副講を行った記録がある^⑨。華嚴学を専門としていたのだろう。靈秀は、翌年以降、記録のない文化二年(1805)年は別として、毎年上京して勉学に励んでいた様子が知られる。そして文化三年の夏講後、擬寮司に任じられた。高倉学寮入寮以来、ちょうど九夏目である。この年は在京のまま越年し、翌年夏講明けに帰国している。

文化五年は、次項から知られるように夏講の期間に国元で会読をおこなっているの、上京しなかったものと思われる。文化七年には住職を継いだ。文化十一年夏講において、初めて会読を担当し『三類境』を講じ、六～七十人の聴衆を得た。また同十三年には『因明三十三過本作法』の会読を担当し^⑩、夏講後に寮司に任じられた。この後は夏講に出席した記録のない年が次第に多くなるが、文政八年(1825)には知事として一夏高倉学寮に詰めている。そして、天保六年(1835)夏講では『成唯識論』を、翌七年夏講では『因明三十三過本作法』の副講を行った^⑪。これらや、次項に示した国元での講義題目からすると、靈秀は法相学にすぐれていたのだろう。その後も夏講には出席したりしなかったりの状況だったようである。記録は天保十一年で終わる。靈秀が没したのは翌天保十二年(1841)、享年六十三歳であった。

4 「会読日記」に見られる靈秀の教育活動

「会読日記」に記されている国元での講義記録は以下の28である。

〔講義1〕文化 5. 5/ 6～? 『三十三過本作法』 於自坊

〔講義2〕文化 5. 6/ 3～6/ 6 『唯識論述記』序 於自坊

〔講義3〕文化 5. 6/29～? 『唯識三十頌』 於自坊

〔講義4〕文化 6. 8/ 7～8/11 『三十三過本作法』 於飛田村浄善寺

〔講義5〕文化 6. 9/ 8～9/15 『六合釈』 (会所無記入)

〔講義6〕文化 9.12/ 1～12/21 『一枚起請文』・『俱舍頌疏』序 (会所無記入)

〔講義7〕文化10. 4/15～? 『正信念仏偈』・『俱舍論頌疏』続講 (会所無記入)

〔講義8〕文化10秋講 『興御書』 (会所無記入)

〔講義9〕文化11.10/18～? 『疑惑和讃』 (会所無記入)

〔講義10〕文化12. 4/16～? 『御文五帖目』・『論語』 (会所無記入)

- [講義11] 文化12.10/10～？ 『悲嘆述懐和讃』・『三十三過作法』（会所無記入）
 [講義12] 文化14. 5/10～？ 『観経玄義分』・『末燈鈔』（会所無記入）
 [講義13] 文政 3. 4/16～？ 『執持鈔』第五条・『法相義』（会所無記入）
 [講義14] 文政 3. 8/ 2～？ 『現世利益和讃』・『唯識三十頌』（会所無記入）
 [講義15] 文政 3. ? ～？ 『法相義』（会所無記入）
 [講義16] 文政 4. 4/10～ 5/15 『正信念仏偈』・『因明論大疏』（会所無記入）
 [講義17] 文政 6. 5/23～6/10 『玄義分』序題門ヨリ・三経和讃（会所無記入）
 [講義18] 文政 8. 9/20～10/25 『入出二門偈』・『六合釈』（会所無記入）
 [講義19] 文政10. 4/16～？ 『選択集』（会所無記入）
 [講義20] 文政11. 4/16～？ 『浄土和讃』（会所無記入）
 [講義21] 文政11.11/ 7～？ 『三十三過本作法』（会所無記入）
 [講義22] 天保 3. 3/ 8～？ 『因明入正理論』・『成唯識述記』序（会所無記入）
 [講義23] 天保 3. 4/23～ 6/20 『因明論大疏』（会所無記入）→於小泉村養性寺→於長岡村当正寺→於名柄村皆順寺
 [講義24] 天保 3. 4/16～？ 『五帖御文』 於自坊
 [講義25] 天保10. 5/ 7～ 6/12 『御文』五帖目・『御傳鈔』 於西野村光遍寺→於島田村明通寺
 [講義26] 天保10. 9/ 1～11/17 『成唯識論』（会所無記入）
 [講義27] 天保11. 4/16～？ 『大経』三毒・五悪両段 於自坊
 [講義28] 天保11/ 9/ 3～11/？ 『成唯識論』続講・『略述法相義』（会所未記入）

これらのうち、[講義8]と[講義24]については出席者の記録がなく、実際に開講されたかどうか不明である。また、[講義18]には講題の左下にわざわざ「自発起」と添え書きしていることからすると、講義テキスト選択は受講者からの要望に拠るの通例であったのかもしれない。会所の記入されていないものが大半を占めるが、これらは自坊における講義と解釈しておきたい。その理由は、受講者の多くが彼の自坊のある下野田周辺の人物であること、また文化十年春に自坊に学寮を建てたとの「会読日記」記事のあることなどによる。なお、「会読日記」に現れる地名・人名については別表のごとくであるが、これについては、次項で触れる。

霊秀の自筆年譜にも国元で行った講義の記録が見られるが、それらのうち以下の三は「会読日記」に見られないものである。

[講義α1] 文政 9. 5/ 1～5/26 『正信偈』・『珠数御文』 於角川村浄音寺
 この講義の聴衆は55～56人であり、盛況であった。

[講義α2] 天保 4. 5/ 1～ 5/20 『御傳鈔』 於角川村浄音寺

[講義α3] 天保 5. 4/20～ 6/25 『二門偈』 於高田本誓寺解行堂

最後のものは、解行堂竣工記念として行われた三つの講義のひとつとしてなされたものである。

5 「会読日記」中の地名・人名について

「会読日記」で最も多く登場する人名は中真砂正福寺覚融と上名柄皆順寺周悦で、それぞれ六回である。覚融は「講義17」において擬寮司となっていることから、高倉学寮へ入寮していたことがわかる。正福寺からは覚融以後にもしばらく継続して受講者が出ている。次いで多い

五回の者は、荻野覚善寺覚明と百々性宗寺音暢である。四回では南新保明岸寺賢明、門前道場智円、長岡等正寺海瓢がおり、角川浄音寺の啓山も「講義20」の「桂山」を同一人と考えるなら四回となる。が、多くは一回乃至二回のみ受講であり、彼らがその後どのようなようになったかについての情報はほとんどない。霊秀との関係が基本的に学問によるものであることは当然だが、その背後に学閥のようなものが影響していたかどうかは今後の課題である。このようなことから、現段階においては学僧たちのネットワークを明らかにすることはまだ困難であるが、本研究を基礎にさらに史料を収集することにより、今後、学僧たちの実態をより明らかにできるよう努めていきたい。

注

- ① 本覚坊文書「会読日記」（上越市史資料目録 Vol.46『本覚坊文書目録』史料番号137-1614-1）。
- ② 以上の記述は、は「大谷派本覺沿革略」（『真宗体系』第三十七巻所収）及び草野顯之氏による『上首寮日記』Ⅰ・Ⅱ「解説」（大谷大学真宗総合研究所編、昭和62年及び63年）により纏めた。
- ③ 全五巻で、文政六年（1823）七月から明治五年（1872）十一月までの記録。注②にも一部記したように、昭和62年から平成2年にかけて大谷大学真宗総合研究所から『上首寮日記』Ⅰ～Ⅳとして翻刻・出版されている。
- ④ 「寮司・擬寮司転席古例、五百疋入座式百疋吹挙但し擬寮司半減」（『上首寮日記』嘉永四年十月十八日条）。
- ⑤ 高倉学寮においては講師クラスの者でも時に笑いものにされることがあった。例えば、文化八年の夏講において嗣講法海は『論註』を講じたが、これについて本覚坊霊秀は次のように記している。
 悪評ナリ。香月院ノ聞書ノママナルガ故、人多笑之。後講不終門ヲ開カズ。人ミナ退屈ス（本覚坊文書「一身上歳時記」、上越市史資料目録 Vol. 46『本覚坊文書目録』史料番号137-1575-1。但し、句読点・濁点は筆者が適宜付した。なお、この仮題は「霊秀自筆年譜」とでも訂正すべきものである）。
- ⑥ 前掲（注②）「大谷派本覺沿革略」p.4。
- ⑦ 「本覚坊庫内聖教目録」（『上越市史別編 4 寺社資料二』所収）。
- ⑧ 前掲（注⑤）「一身上歳時記」。
- ⑨ 『三郷村々誌』（三郷村役場、大正15年）所載の天野原新田明善寺（真宗大谷派）歴代の中に見える「補天」が「神天」のことと思われる。
- ⑩ 前掲「大谷派本覺沿革略」中の「学寮講義年鑑」による。
- ⑪ 同上「学寮講義年鑑」では、どちらも「靈照」の名で記録されている。
- ⑫ 「学寮講義年鑑」ではどちらも「嶺照」の名となっている。

表 【会読日記】中地名・人名講義別・年別一覧

(1-1)

明治～昭和旧 町村名	近世村名	整理番号及 び寺院名	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6
			文化 5 年	〃	〃	文化 6 年	〃	文化 9 年
津有村	下野田	1 本覚坊					浄恵	浄慧
	市野江	2 一						
	荒屋	3 源長寺						
	戸野目	4 蓮休寺						
	角川	5 浄音寺						
	上野田	6 真宗寺						
	〃	7 西方寺						
	下池部	8 一						
	上池部	9 流源寺						
	野尻	10 臨行寺						
	吉岡	11 法福寺						
諏訪村	南新保	12 明岸寺	賢明	賢明	賢明		賢明	
	荻野	13 覚善寺	覚明	覚明				覚明
	〃	14 等覚寺						北一
	米岡	15 善導寺						
	鶴町	16 円性寺						
	中真砂	17 正福寺			覚融 亮観		覚融 亮観	覚融
	上真砂	18 勝名寺						
	千原	19 長念寺						
	飯塚	20 西光寺						
	福橋	21 養林寺						
	中島	22 泉光寺						
	横曽根	23 一						
新道村	富岡	24 安正寺	幽洞	幽洞				
有田村	小猿屋	25 (道場)						
	門前	26 (道場)						
	今善光寺	27 長慶寺						
	三田	28 忍西寺						
	三ツ橋	29 (道場)						
	福田	30 智願寺						
保倉村	吉野	31 随念寺						
	五野井	32 善照寺						
	駒林	33 持専寺						
	長岡	34 当正寺						
	小泉	35 養性寺						
	〃	36 正満寺						
	(上) 名柄	37 皆順寺						
	(五貫野)	38 一						
美守村	広井	39 常見寺						
	本郷	40 宗専寺						
高士村	浦梨	41 隆満寺						
大瀧村	島田新田	42 明通寺						
	西野	43 光遍寺						
	坂井新田	44 浄嚴寺						
	宮原新田	45 最尊寺						
	宮本新田	46 浄念寺						
	百間町	47 栄恩寺						
	鶴ノ木新田	48 福浄寺						
	四ツ屋	49 慈願寺						
	柳町新田	50 龍覚寺						
	市村新田	51 威徳寺						
	榎井	52 正明寺						

(1-2)

整理番号及び 寺院名	講義7 文化10年	講義8 〃	講義9 文化11年	講義10 文化12年	講義11 〃	講義12 文化14年	講義13 文政3年	講義14 〃
1 本覚坊	浄恵							
2 ー			求道					
3 源長寺				流連 普門	流連 普門		法音	
4 蓮休寺	是雲			是雲				
5 浄音寺								
6 真宗寺								
7 西方寺								
8 ー								
9 流源寺								
10 臨行寺								
11 法福寺								
12 明岸寺						智溪	靈明	
13 覚善寺	覚明							
14 等覚寺	北一					了恵		
15 善導寺	鳳賢							
16 円性寺	聡明 恵然							
17 正福寺	覚融							覚融
18 勝名寺	了観							
19 長念寺			北照	北照	北照			
20 西光寺						智成	徳明	徳明
21 養林寺								
22 泉光寺								
23 ー								
24 安正寺								
25 (道場)								
26 (道場)								
27 長慶寺								
28 忍西寺								
29 (道場)				琳照				
30 智願寺								
31 随念寺			麗浄					
32 善照寺					龍専		呑鬼	
33 持専寺					*了雄	*了雄		
34 当正寺								
35 養性寺								
36 正満寺								
37 皆順寺								
38 ー								
39 常見寺					励義			
40 宗専寺								
41 隆満寺								
42 明通寺								
43 光遍寺								
44 浄嚴寺								
45 最尊寺								
46 浄念寺								
47 栄恩寺								
48 福浄寺								
49 慈願寺								
50 龍覚寺								
51 威徳寺								
52 正明寺								

(1-3)

明治～昭和旧 町村名	近世村名	整理番号及 び寺院名	講義15	講義16	講義17	講義18	講義19	講義20
			文政 3 年	文政 4 年	文政 6 年	文政 8 年	文政10年	文政11年
津有村	下野田	1 本覚坊			鳳山 尽奥		尽奥	
	市野江	2 一						
	荒屋	3 源長寺						
	戸野目	4 蓮休寺						
	角川	5 淨音寺				啓山	啓山	桂山
	上野田	6 真宗寺				徹道		
	〃	7 西方寺				顕忠		
	下池部	8 一						義静
	上池部	9 流源寺				一山		
	野尻	10 臨行寺				得静	恵三	
	吉岡	11 法福寺						
諏訪村	南新保	12 明岸寺			智鳳			
	荻野	13 覚善寺			恵成			
	〃	14 等覚寺			宝隆*			
	米岡	15 善導寺						
	鶴町	16 円性寺		亮山	亮山	亮山		
	中真砂	17 正福寺			覚融* 恵灯	芳命	墓同	墓同
	上真砂	18 勝名寺			覚了			
	千原	19 長念寺			恵灯			
	飯塚	20 西光寺		恵成	法月		法月	
	福橋	21 養林寺		大円				
	中島	22 泉光寺			秀観	智海	恵明	
	横曽根	23 一						
新道村	富岡	24 安正寺						
有田村	小猿屋	25 (道場)			恵照	恵照		
	門前	26 (道場)		智流	智流	智円	智円 鳳龍	
	今善光寺	27 長慶寺						法隆
	三田	28 忍西寺						原励
	三ツ橋	29 (道場)		智門 智弘	智門 智弘			
	福田	30 智願寺						
保倉村	吉野	31 随念寺						
	五野井	32 善照寺						
	駒林	33 持専寺						
	長岡	34 当正寺			恵音		泰庵 徳聚	
	小泉	35 養性寺					速成 至誠	
	〃	36 正満寺						
	(上) 名柄	37 皆順寺					周悦	
美守村	(五貫野)	38 一						
	広井	39 常見寺						
高士村	本郷	40 宗専寺		覚道 秀山			覚道	
	浦梨	41 隆満寺	得明			法友		
大瀧村	島田新田	42 明通寺						
	西野	43 光遍寺						
	坂井新田	44 淨巖寺						
	宮原新田	45 最尊寺						
	宮本新田	46 淨念寺						
	百間町	47 栄恩寺						
	鶴ノ木新田	48 福浄寺						
	四ツ屋	49 慈願寺						
	柳町新田	50 龍覚寺						
	市村新田	51 威徳寺						
	榎井	52 正明寺						

(1-4)

整理番号及び 寺院名	講義21	講義22	講義23	講義24	講義25	講義26	講義27	講義28
	文政11年	天保3年	〃	〃	天保10年	〃	天保11年	〃
1 本覚坊	鳳山 尽奥	鳳山 尽奥	鳳山					
2 一					龍雲			徳旺
3 源長寺								
4 蓮休寺							惠亮	
5 浄音寺							啓山 右門	
6 真宗寺								
7 西方寺								
8 一								
9 流源寺								
10 臨行寺								
11 法福寺								
12 明岸寺							普済	
13 覚善寺		存恵	法隆					
14 等覚寺					得霊	義淵	義淵	
15 善導寺								
16 円性寺								
17 正福寺		大弁	基同 大蔵					
18 勝名寺								
19 長念寺					大恵			
20 西光寺								
21 養林寺								
22 泉光寺		智海	智海					
23 一						求道	求道	求道
24 安正寺								
25 (道場)						大誠	大城	大誠
26 (道場)	智円	智円	(舎弟)					
27 長慶寺								
28 忍西寺						惠澄	惠澄	
29 (道場)								
30 智願寺					大山			
31 随念寺								
32 善照寺								
33 持専寺								
34 当正寺		徳聚	徳聚 海瓢		海瓢	海瓢	海瓢	
35 養性寺			徳蔵 * 含蔵		含蔵			
36 正満寺							法巖	
37 皆順寺		周悦	周悦	周含	周含	周悦	周悦	周悦
38 一					法城			
39 常見寺								
40 宗専寺					超天			
41 隆満寺								
42 明通寺			恵水		万含			
43 光遍寺					実秀 義秀		実秀	秀実
44 浄巖寺					覚寿			
45 最尊寺					普念			
46 浄念寺					超道			
47 栄恩寺					徳融			
48 福浄寺					一意 観道		一意	
49 慈願寺					峻山			
50 龍覚寺					恵照			
51 威徳寺					義秀			
52 正明寺					智専			

(2 - 1)

明治～昭和旧 町村名	近世村名	整理番号及 び寺院名	講義 1	講義 2	講義 3	講義 4	講義 5	講義 6
			文化 5 年	〃	〃	文化 6 年	〃	文化 9 年
明治村	下増田	53 ー						
	上増田	54 啓明寺						
	石神新田	55 林泉寺						
	大潟新田	56 ー						
	玄曽	57 ー						
里五十公村	窪	58 専長寺						
	川浦	59 大巖寺						
	野	60 善行寺						
	中	61 長善寺						
	〃	62 光国寺						
	〃	63 本光寺						
上杉村	井ノ口	64 蓮淨寺						
	今保	65 ー						
八千浦村	黒井	66 本敬寺						
	夷浜	67 淨泉寺						
潟町村	内雁子	68 ー						
	波柿浜	69 専念寺						
	行ノ浜	70 ー						
	長崎	71 養法寺						
	上小船津	72 善照寺						
旭村	六万部	73 得生寺						
	町田	74 ー						
	西野島	75 敬泉寺						
	梶	76 性徳寺						
柿崎町	馬正面	77 西念寺						
和田村	中箱井	78 明福寺				亮観		
斐太村	飛田	79 淨善寺				亮海		
	長森	80 円了寺				僧紹		
	青田	81 得法寺				信玉		
	石塚	82 光源寺				義興		
矢代村	西野谷	83 ー						
名香山村	関川	84 淨善寺						
直江津町	今町	85 林正寺						
(未確定)	百々	86 性宗寺						
	市場	87 正覚寺						
頸城平野以外								

別表注記

- ・地名の配列は、位置関係の目安として明治から昭和前期の旧町村名によって近世の村落を分類した上で、まず関川東部について下野田の所属した津有村を中心に、北西から時計回りに旧町村を同心円状に配置し(諏訪村～高士村、大湊村～上杉村、八千浦村～和田村)、その後に関川西部の旧町村を置いた。旧町村分類内の近世村落名は順不同であり、従って寺名やそれに付した整理番号も便宜的なものである。
- ・寺院名欄が「ー」となっているものは、必ずしも寺院が所在しないことを意味するものではなく、史料中には寺院名が見えないことを示す印である。

(2-2)

整理番号及び 寺院名	講義 7 文化10年	講義 8 〃	講義 9 文化11年	講義10 文化12年	講義11 〃	講義12 文化14年	講義13 文政3年	講義14 〃
53 ー						統海		
54 啓明寺								
55 林泉寺								
56 ー								
57 ー								
58 専長寺						忍聴		
59 大巖寺								
60 善行寺								
61 長善寺								
62 光国寺								
63 本光寺								
64 蓮浄寺								
65 ー								
66 本敬寺								
67 浄泉寺								
68 ー								
69 専念寺								
70 ー								
71 養法寺								
72 善照寺								
73 得生寺								
74 ー								
75 敬泉寺								
76 性徳寺								
77 西念寺								
78 明福寺								
79 浄善寺								
80 円了寺								
81 得法寺								
82 光源寺								
83 ー			大円					
84 浄善寺			良観					
85 林正寺						吞月		
86 性宗寺				得寿		音暢	音暢	音暢
87 正覚寺						智導		
						刈羽郡峯村 照源寺智証	円超	信州松本正 行寺秀顕、 信州吉田善 久寺地中性 宗寺無外、 同本覚寺信 城

- ・人名に地名・寺名が付されていない場合、その前後数回の講義記録中に同名の人名があるものについては、それと同一人物と見なして扱った。
- ・人名の右肩に付した*印はその人が擬寮司であることを示す。
- ・「4蓮休寺」の地名について、「講義7」では「相包」であるが、「講義10」と寺名・人名において一致していることにより「戸野目」のことと理解した。同様に、「16円性寺」の地名は、「講義7」「講義16」では「沖村」であるが、「講義16」と「講義17」とで寺名・人名の一致することにより「鶴町」のことと理解した。
- ・「26(道場)」は「講義19」において「門前道場改長慶寺」とあり、以後「講義23」では「門前長慶寺」として出ており、「27長慶寺」と同一と考えられるが、共通する人名がないので一応別扱いとした。

(2-3)

明治～昭和旧 町村名	近世村名	整理番号及 び寺院名	講義15 文政3年	講義16 文政4年	講義17 文政6年	講義18 文政8年	講義19 文政10年	講義20 文政11年
明治村	下増田	53 ー						
	上増田	54 啓明寺						
	石神新田	55 林泉寺						
	大潟新田	56 ー						
	玄曾	57 ー						
里五十公村	窪	58 専長寺		忍聴 北潮		北潮		
	川浦	59 大巖寺		静月				
	野	60 善行寺					鷺嶺	
	中	61 長善寺						
	〃	62 光国寺						
	〃	63 本光寺						
上杉村	井ノ口	64 蓮浄寺		霊成 秀天		智鳳	智鳳	
	今保	65 ー						
八千浦村	黒井	66 本敬寺						
	夷浜	67 浄泉寺						
潟町村	内雁子	68 ー						
	波柿浜	69 専念寺						
	行ノ浜	70 ー						
	長崎	71 養法寺						
	上小船津	72 善照寺				恵曠		
旭村	六万部	73 得生寺						
	町田	74 ー						
	西野島	75 敬泉寺						
	梶	76 性徳寺						
柿崎町	馬正面	77 西念寺						
和田村	中箱井	78 明福寺						
斐太村	飛田	79 浄善寺						
	長森	80 円了寺						
	青田	81 得法寺						
新井町	石塚	82 光源寺						
矢代村	西野谷	83 ー						
名香山村	関川	84 浄善寺						
直江津町	今町	85 林正寺						
(未確定)	百々	86 性宗寺			音暢		音暢	
	市場	87 正覚寺						
頸城平野以外				信州吉田善 久寺地中本 覚寺信城、 同地中浄専 寺鳳巖、信 州松本正行 寺秀顕	信州吉田善 久寺地中正 宗寺無外、 同信行寺秀 天、同本覚 寺秀巖			名立正光寺 桂井

- ・「33持専寺」記載の「了雄」は、「講義11」で「駒林持専寺ニ住」とあることによる。「講義12」では「相州明窓寺」と書かれ、持専寺の客僧と思われる。
- ・「37皆順寺」の「周悦」は後に自ら学寮を開いたらしい。上越市長岡平野家文書中に、同人が明治3年に書いた学寮再興のための一札証文が残されている（上越市長岡平野団三家文書・上越市史料番号83-1119-1）。
- ・「81得法寺」の「信玉」は、「上首寮日記」によれば、天保12年夏講において知事を勤めることになっていた（直前に死去）ことからすると、この頃には寮司となっていたものと考えられる。

(2-4)

整理番号及び 寺院名	講義21 文政11年	講義22 天保3年	講義23 〃	講義24 〃	講義25 天保10年	講義26 〃	講義27 天保11年	講義28 〃
53 ー								
54 啓明寺					義閑			
55 林泉寺					義鈞			
56 ー						実秀		
57 ー					恵融			
58 専長寺								
59 大巖寺								
60 善行寺		鶯嶺	鶯嶺					
61 長善寺							智成	
62 光国寺							覚城*	
63 本光寺							正意	
64 蓮浄寺	智鳳							
65 ー					慶山			
66 本敬寺					円山			
67 浄泉寺					(浄泉寺)			
68 ー					励明			
69 専念寺					恵応			
70 ー					蘭秀			
71 養法寺					了教			
72 善照寺					恵順* 恵天 *基綱* 説 誠 梅山			
73 得生寺					高存			
74 ー					北寿			
75 敬泉寺					達恵 周鳳 法寿			
76 性徳寺								恵三
77 西念寺						芳林		
78 明福寺								
79 浄善寺								
80 円了寺								
81 得法寺								
82 光源寺								
83 ー								
84 浄善寺								
85 林正寺								
86 性宗寺								
87 正覚寺	原静 大安							糸魚川西性 寺大安 江 州彦根恵観

・「86性宗寺」の所在地「百々」の候補地としては、現字名「下百々」(旧保倉村)と同「上百々」(旧和田村)の二カ所が挙げられるが、どちらにも同名の寺のあったことが確認できず判断できないため、所属不明とした。

・「87正覚寺」の所在地「市場」については全く比定できない。なお、頸城平野内で正覚寺の名を持つ真宗大谷派寺院には「大光寺」(旧上杉村)のものがある。

About Buddhist Studies by Shinshu-monks of Jouetsu Area in Late Edo-Period

Shinya MATSUDA*

ABSTRACT

It is said that in the late Edo-Period buddhist studies were greatly developed. Especially there appeared many learned monks from the Shinshu Sect. It was the result of the improvement of the scholastic ability of rural monks. But their reality has almost been unknown to us till now. The author tries to make clear their actualities by using a document of a local school founded by a Shinshu-monk named Reishuu who lived in the Jouetsu area in the first half of the 19th century.

* Division of Social Studies